

一日林良喜老へ被召呼勝手に罷歸候様被仰候白銀三枚頂戴旅宿本石町四丁目仁兵衛店六郎次郎届來ル同七年壬寅四月二十五日桐山太右衛門下總國千葉郡小金の内瀧臺野にて爲御藥園十五萬坪拜借被仰付桐山は藥店なり同年八月二十八日今度芝新網町に罷在候浪人安部友之進相州大山より八王子邊藥草御用に被遣候爲路金五兩町欠所金の内より下置れ出雲守様より年番此方へ仰下らる

採藥使記は享保五年庚子駒場御藥園御用屋敷の預り植村左平治政勝採藥の台命を承り其時より寶曆三年癸酉に至るまで間斷なく三十餘年採藥の爲に諸國巡行し人の行ざる處も巡見し藥物はさらなり奇事に至まで書紀し九卷の書として寶曆五年丙子に献上しぬされども藥物搜索は其學問廣く鑒定精細ならざれば益なきことなり

鬪草

〔倭名類聚抄四雜藝〕鬪草 荆楚歲時記云五月五日有鬪百草之戲鬪草此間云欠佐阿波世

〔嬉遊笑覽十二草木〕宗懷荆楚歲時記曰競採百藥謂百草以蠲除毒氣故世有鬪草之戲といべり中七

修類稿に風俗鬪百草之戲獨盛於吳故荆楚記有端午四民鬪百草之言未知其始也昨讀劉禹錫詩

曰若共吳王鬪百草不如應是欠西施則知起于吳王與西施也おもふに禹錫が詩は唯その國の風俗をもて作れるまでに必しも吳王西施が故事あるにはあらず中又すまふ取草にて童ども勝負を争ふ戲あり中

又稻草或は燈草タカノハなど束ね括り三寸ばかりに截て立れば下廣がりて立なり是も前の如く三ッよせて相撲とらすことおなじ又松の葉の股を互に引かけて切たるを負とするを松葉きりといふ此等のわざは異なれども鬪草の類なり

○按ズルニ鬪草ノ事ハ遊戯部物合篇ニ詳ナリ宜シク參看スベシ

〔眞本新撰字鏡十二諸食物調饌〕櫛稻伊福古文

〔倭名類聚抄十七稻芒等附〕廣志曰有紫芒稻赤穰稻今案稻熟有早晚取其名和名早稻和勢晚稻於久天或又處々有之

名稻

〔倭名類聚抄十七稻芒等附〕廣志曰有紫芒稻赤穰稻今案稻熟有早晚取其名和名早稻和勢晚稻於久天或又處々有之